

大谷學報

第七十一卷 第一号

平成四年五月二十日発行

『三朝高僧伝』管窺……………滋賀 高義 (1)	——習禅篇を中心として——
信と経験……………大城 邦義 (21)	——『仏説観無量寿経』を読む—— (上)
平成二年度 修士・卒業論文題目一覧…………… (32)	
平成二年度 寄贈交換誌目録…………… (48)	
彙報…………… (65)	
学位論文審査要旨…………… (38)	
ゲーテの詩《魔王》……………栗花落和彦 (17)	——〈伝承バラード〉から〈創作バラード〉へ——
滋賀県西北部近江今津町北方の 平野下部の活構造について……………西田 潤一 (1)	

大 谷 大 学

大 谷 学 会

大谷学報 第七十卷 第三号

慈雲遵式の浄土思想……………福島 光哉

声明史料としての『弾偽褒真鈔』……………岩田 宗一

シュミットハウゼン著

『アーラヤ識論』ノート……………小谷信千代

大谷学報 第七十卷 第四号

曇鸞和讃考……………延塚 知道

浄土を求める心……………藤嶽 明信

——欣慕・帰命・願生——

平成二年度 大谷学会研究発表要旨

シャーウッド・アンドソン……………渡辺 範征

——真理探究への助走——

三性説における唯識無境の

意義(2)……………兵藤 一夫

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles :

A Study of the *Biographies of Eminent*

Monks of the Three DynastiesTakayoshi Shiga (1)

——with reference to the Chapter
of Learnig Meditation——

Religious Belief and Religious Experience in
the *Meditation Sūtra*

(*Kuan-wu-liang-shou-ching*) (I)Kuniyoshi Oshiro (21)

On the Active Fault Structure

beneath the Northern Plain of Imazu-cho,

Northwestern Part of Shiga PrefectureJun-ichi Nishida (1)

Goethes Gedicht : *Erlkönig*Kazuhiko Tsuyu (17)

——von der Volksballade zur Kunstballade——

Miscellaneous :

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・社会学・史学・文学、その他の學術研究と發表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

一、季刊「大谷学報」の発行

二、「大谷大学研究年報」の発行

三、研究会及び公開講演会の開催

四、その他必要な事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学のすべての教育職員及び学生をもって会員とする。

2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員となることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

一、会長

二、委員

三、監事

第六条 会長には大谷大学学長が当り、会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会において互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

第八条 1、監事は二名とし、教授会において互選する。任期は二年とする。

2、監事は本会の会計を監査する。

第九条 会員は本会の出版物にその研究を發表し、「大谷学報」並びに「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第一〇条 会員の会費は年額金四千元とする。但し、学生会員は式千円とする。

第十一条 1、本会の経費は会費をもってこれに当てる。

2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第十二条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第十三条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和五十六年四月一日から施行する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

大谷学会役員

委員

荒井とみよ

安藤 智信

池上 哲司

大竹 鑑

小野 蓮明

片野 道雄

木村 宣彰

多田 稔

豊島 修

安富 信哉

平成四年五月二十日発行

編集兼
発行者

大谷学会

古 田 和 弘

印刷者

西 村

明

京都市北区小山上総町
大谷大学内

発行所 大 谷 学 会

振替 京都 四一八三九三番
電話(〇七五) 四三二一三三二代
郵便番号 六〇三

大谷学報 第七十卷 第二号

ニ―チエの自然……………須藤 訓任

三輩の教言……………加来 雄之
——願生者の試金石——

大谷学会 春季公開講演要旨

「妙好人」攷……………大屋 憲一

詩人六如慈周……………黒川 洋一
——「相撲節会」の詩について——

和辻哲郎著『風土』独訳への

後書き（独文）……………大河内了義

大谷学会編

大谷大学研究年報
大谷大学研究年報
総目録

仏教研究（第一卷第一号～第八卷第四号）

大谷学報（第九卷第一号～第六十卷第四号）

大谷大学研究年報（第一集～第三十三集）

に掲載された論文、書評、講演要旨などを収録

〈論文目録〉真宗学／仏教学／哲学／社会学／教育学／
心理学／史学／文学／法学・政治学／図書館学／自然科学／
保健体育学。

春季公開講演要旨／秋季公開講演・研究発表要旨／書評
／新刊紹介／追憶・年譜など。巻末に執筆者索引を付す。

（A5版・一二六頁・一九八二年七月刊・八〇〇円）